

Syllabus Id	syl.-092461
Subject Id	sub-092004600
作成年月日	2009年3月19日
授業科目名	ドイツ語 (German I)
担当教員名	杉山和子
対象クラス	電気電子工学科4年生 / 制御情報工学科4年生
単位数	2履修単位
必修 / 選択	必修
開講時期	通年
授業区分	語学
授業形態	講義
実施場所	対象クラスのHR

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

ドイツ語は中欧・東欧諸国で広く使用されている、国際的コミュニケーションに有効な言語である。同じゲルマン語族として英語と似た文法・語彙体系を持ちながらより古い規則を残しているドイツ語は、比較的習得が容易であるとともに、他の欧米系言語理解の助けとなりうる。文化的背景、思考方法の違いなどにも注目しながら初級ドイツ語を習得する。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

ドイツ・オーストリア・スイス関連の本、ニュースに関心をもつ。

学習・教育目標	Weight	目標
		A
	B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
	C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
	D	国際的な受信・発信能力の養成
	E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成
D:コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力		

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。
3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。

授業目標

1. ドイツ語初級文法、語彙、読解力の習得。
2. 自分自身と身の回りのことを簡単なドイツ語で表現できる。(会話・独作文)
3. ドイツの文化、ドイツ語の背景、ヨーロッパの文化に触れる。

授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	オリエンテーション	プログラムの学習・教育目標、授業概要・目標、スケジュール、評価方法と基準、等の説明 ドイツ・ドイツ語の基礎知識。アルファベット	
第2回	発音	発音の規則、アルファベット	
第3～7回	Lektion1	テキスト、文法事項(動詞の現在人称変化、疑問詞、語順、接続詞、数詞など)、独作・会話(自己紹介)	
第8回	前期中間試験		×
第9～13回	Lektion2	文法事項(名詞の性、冠詞、habenの人称変化)、独作・会話(道案内)	
第14～16回	Lektion3	テキスト、文法事項(不規則動詞1、命令形、名詞の複数形)、独作	
	前期期末試験		×
第17～18回	Lektion3	テキスト、文法事項、ドイツの社会紹介(冷戦・ドイツ統一・壁崩壊と国歌)	
第19～23回	Lektion4	テキスト、文法事項(不規則動詞2、分離動詞、冠詞、時刻の言い表し方)	
第24回	後期中間試験		×
第25～28回	Lektion5	テキスト、文法事項(前置詞、冠詞、人称代名詞)、ドイツの文化紹介	
第29～31回	Lektion6	テキスト、文法事項(話法の助動詞)	
	学年末試験		×
第32回	答案返却・まとめ		

課題

出典:独作文(授業時間中に課題を出題)

提出期限:授業中

提出場所:教室

オフィスアワー:月・水・木曜日(時間は要連絡) 非常勤講師室

評価方法と基準

評価方法:

1. ドイツ語の文法・語彙・読解力・聞き取り等の習熟度を定期試験で確認
2. 自分に関して簡単なドイツ語で表現すること・日常表現・文法習熟度などを、授業中課題(独作文等)で確認
3. 成績不振者については、授業態度(会話や聞き取り演習に積極的に参加しているか。発問に対して意欲的な返答があるか等)から判断し、点数に反映しにくいドイツ語理解度が相応にあると認められる場合のみ、特別課題レポートを加味して評価する。

評価基準:

前期中間試験:23%、前期末試験:23%、後期中間試験:23%、後期末試験:23%、授業中課題(独作文等):8%、学生自身による学習・教育目標達成度調査結果:最大10%、特別課題レポート:最大10%、欠席減点:最大5%

教科書等

関口一朗「ハローミュンヘン」白水社

先修科目

英語

関連サイトのURL

東京ドイツ文化センター <http://www.goethe.de/tokyo>

授業アンケートへの対応

黒板の説明を整理して書く。随時、学生の理解度を確認する。ペア練習を増やす。

備考

- 1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。
- 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。